

余休按

後藤靜歌集

形成堂刊

金
樓
梅

後藤靜
歌集

形成叢刊

短歌研究社

省
略
印
検

昭和五十六年十二月十五日 発行
歌集 金綾梅 まんきく 定価二〇〇〇円

著者 後藤 静

郵便番号一六八 東京都杉並区宮前五―七―二十 山本方

発行者 小野 富久子

発行所 短歌研究社

郵便番号一〇二

東京都千代田区二番町八番地
電話(二六)八六七八番

振替(東京)九一二四三七五番

印刷者 編野 栄

製本者 大沢 輝兵衛

底丁本・乱丁本はお取替いたします。

形成叢刊

目 次

古き盃 昭和四十三年～昭和四十五年

古き盃……………一〇

ひとりごころ……………二

蛇のひげ……………六

壺……………二四

すぎゆく……………二六

暑き日……………三六

針……………四〇

金縷梅 昭和四十六年～昭和四十八年

金縷梅まんさく……………四四

山寺……………五〇

団栗……………五

冬の歌……………六

梅……………七

なたねづゆ……………七

北の陽……………八

草もみぢ……………八

仏手柑 昭和四十九年～昭和五十一年

仏手柑……………六

古机……………一〇六

屋根瓦……………一三

山襷……………二七

石菖……………二六

鉄砲ゆり……………一三

山陰……………一七

青嵐……………一四

てりかげり……………一五

漂鳥 昭和五十二年～昭和五十五年

漂鳥……………一五

北陸 万葉の旅……………一六

寒蟬……………一七

折鶴……………一七

志賀のみづうみ 万葉の旅……………一七

黒き森……………一八

てる日かげる日……………一九

金^ま
綾^ん
梅^め

古
き
盃

自昭和四十三年
至昭和四十五年

古き盃

誘はれ来し歳晩の田村町朱文字のにじむ飯店
に入る

この宵の胸処にはやくしみこまむ白磁の盃に
ヒレ酒はにほふ

古美術商の一筋にながき年月を重ねたる君き
よき眼をもつ

婚十五年いつかすぎたるわが子らに贈りやら
むとえらぶ古き盃もひ

歲月にはぐくまれ来しわれらかと静かに卓を
囲みてゐたり

ひとりごころ

一木づつ防虫の藁を巻かれ立つ松にさす陽も
けふの身にしむ 御歌会陪聴

霜の夜の孤独のころよせて一いちづ高志冬歴と
書き写しゆく

ひとりにもなれて書物よむ寒の夜新酒の粕を
火にあぶりつつ

青白き花芽のぞかせて春蘭のひと株があり寒
の陽だまり

葉牡丹のみるみる昏らむ窓のそと立つきつか
けを失ひてゐる

吹雪く空に雷とどろけりしばしばも術なくた
わむ庭木みにたつ

沈丁の香にたちて来し幾株を押伏せてくらし
降りしまく雪

鮮かに珊瑚色なす芍薬の芽もこの降れる雪に
うもれぬ